

令和6年度富山県がん診療連携協議会 議事次第

日時 令和7年3月3日(月)
16時から

場所 県立中央病院 5階ホール

1 開 会 2 議 題

- (1) 令和6年度作業部会の活動実績報告について
- (2) がん診療連携拠点病院等の整備指針見直しスケジュールについて
- (3) 富山県がん診療連携協議会のHPの活動報告について
- (4) 令和7年度の部会長病院について
- (5) その他

3 閉 会

<配布資料>

説明資料1「令和6年度富山県がん診療連携協議会作業部会活動実績報告書(研修部会)」

説明資料2「令和6年度富山県がん診療連携協議会作業部会活動実績報告書

(小児・AYA世代妊孕性温存部会)」

説明資料3「令和6年度富山県がん診療連携協議会作業部会活動実績報告書(がん登録部会)」

説明資料4「令和6年度富山県がん診療連携協議会作業部会活動実績報告書(相談支援部会)」

説明資料5「令和6年度富山県がん診療連携協議会作業部会活動実績報告書(緩和ケア部会)」

説明資料6「令和6年度富山県がん診療連携協議会作業部会活動実績報告書

(地域連携クリティカルパス部会)」

説明資料7「がん診療連携拠点病院等の整備指針見直しスケジュール」

説明資料8「富山県がん診療連携協議会HPの活動報告書」

参考資料1「富山県がん診療連携協議会設置要綱」

参考資料2「富山県がん診療連携協議会作業部会の設置」

令和6年度富山県がん診療連携協議会作業部会活動実績報告書

1. 部会名	研修部会	2. 部会長病院(部会長)	富山大学附属病院(林龍二 腫瘍内科・緩和ケア内科長)
3. 部会メンバー			
黒部市民病院	河岸 由紀男(呼吸器内科部長)、藤田 由紀江(副看護部長)、中川 遼(総務課主任)		
富山労災病院	庄司 泰弘(第二外科部長)、本間 啓子(看護副部長)、山本 尚弘(医事課長)		
富山市民病院	名倉 慎人(外科医長)、村井 純子(統括副看護部長)、村中 なつみ(経営管理課主査)		
富山大学附属病院	林 龍二(腫瘍内科・緩和ケア内科長)、鹿島 美友紀(副看護部長)、小野 敦央(副薬剤部長)、垣地 彩(病院企画課係長)		
厚生連高岡病院	岩佐 桂一(腫瘍内科診療部長待遇)、吉田 志布(総合的がん診療センター看護師長)、大江 淳一(総務課主任)		
高岡市民病院	大澤 幸治(消化器内科主任部長)、藤野 涼子(看護師長)、近藤 勝春(総務課主任)		
市立砺波総合病院	西嶋 博司(がん診療部長)、今井 真由美(看護部科長)、中本 達也(医事課 事務)		
富山県立中央病院	小川 浩平(腫瘍内科部長)、五本 友子(看護部看護研修科長)、藤澤 芹花(経営管理課管理係主事)		
済生会高岡病院	吉田 徹(診療部長・外科部長)、山田 真由美(看護副師長(乳がん認定看護師))、奥田 美紀(総務課課主事)		
富山赤十字病院	岡田 和彦(消化器内科部長)、原 浩美(看護部副部長兼研修センター長補佐)、稲見 まゆか(研修センター 事務主事)		
オブザーバー	森本 佳彦(県健康課長(がん対策推進担当))、藤田 のどか(県健康課がん対策推進担当)		
4. 開催実績			
回	開催日・場所	出席者数	協議の概要
第一回	令和6年8月8日(オンライン会議)	17名	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和6年度がん医療従事者研修計画について 2. がん診療連携拠点病院等が主催する研修・講演会について 3. 希少がん研修について 4. がんゲノム医療について 5. 富山県がん診療連携協議会作業部会活動実績報告書について
第二回	令和7年2月26日(オンライン会議)	25名	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和6年度がん医療従事者研修実績について 2. 富山県がん診療連携協議会による研修・講演会について 3. 希少がん研修について 4. がんゲノム医療について 5. 令和6年度活動実績報告書(案)について
5. 活動成果			
<p>1) 各施設、独自の研修会を実施している。特に緩和ケアに関する研修会が活発に行われている。</p> <p>2) 今年度の研修テーマとして①希少がん、②高齢者がん対策、③妊孕性温存、④がんゲノム医療の4項目があった。この中で③のがん生殖医療ネットワーク推進研修会が行われ、今後ますます啓発活動の発展が期待される。一方で①、②、④についてより研修活動の活性化が望まれる。</p>			
6. 今後の課題			

活動成果を見ると緩和ケア領域、がん生殖領域での研修活動が行われている一方、希少がん、高齢者がん対策、がんゲノム医療の活動の報告が見えづらい。これは実際の活動がなされていないのか、報告漏れなのかは定かではない。前者 2 領域ではがん診療連携協議会の中で部会が活動しており、一方後者 3 領域では部会は設定されていない。今後、この 3 領域において部会ないしそれに準ずる活動がなされることが望まれる。

7. PDCAの取組み

P	今年度の全体研修テーマ： 1. 希少がんを対象としたクリニカルカンファレンスの立ち上げ。2. 妊孕性温存。3. がんゲノム医療。
D	小児・AYA 世代妊孕性温存性部会活動により、富山県がん・生殖医療ネットワーク事業、症例検討会を行った。富山県の補助金制度運用もなされた。
C	がんゲノム医療が2病院で行われているが研修会は開かれなかった。希少がんの症例検討も開かれなかった。
A	研修テーマである1. 希少がん、3. がんゲノム医療の研修が進んでいない。さらに高齢者がん診療も課題として残っている。⇒部会ないしそれに相当する組織が必要。

8. 来年度の部会長病院(案)	富山大学附属病院
-----------------	----------

※「7. PDCAの取組み」については、「5. 活動成果」「6. 今後の課題」と内容が重複しても構いません。

令和6年度富山県がん診療連携協議会作業部会活動実績報告書

1. 部会名	小児・AYA 世代妊孕性温存部会	2. 部会長病院(部会長)	富山大学附属病院(林龍二 腫瘍内科・緩和ケア内科教授)
3. 部会メンバー			
黒部市民病院	結城 浩良(産婦人科部長), 西川 祐美子(精神科医長), 石川 憲一(総務課主任)		
富山労災病院	庄司 泰弘(第二外科部長), 宮島 玲子(がん化学療法認定看護師)		
富山市民病院	田中 智子(産婦人科主幹), 中井 尚美(看護師)		
富山大学附属病院	林 龍二(腫瘍内科・緩和ケア内科教授, がんゲノム医療センター長), 中島 彰俊(産科婦人科教授), 伊東 雅美(産科婦人科助教), 市川 美幸(総合がんセンター看護師長), 倉田 典子(外来看護師長), 垣地 彩(病院企画課係長)		
厚生連高岡病院	福田 香織(産婦人科診療部長待遇), 茶谷 香織(乳がん看護認定看護師)		
高岡市民病院	牛島 倫世(産婦人科部長), 蔭浦 瑞希(副看護師長), 近藤 勝春(総務課主任)		
市立砺波総合病院	佐々木 泰(産婦人科部長), 平 優子(がん相談支援センター相談員), 中本 達也(医事課 事務)		
富山県立中央病院	南 里恵(産婦人科部長), 高田 智美(主任)		
済生会高岡病院	吉田 徹(診療部長, 外科部長), 吉本 英生(産婦人科部長), 山田 真由美(看護副師長(乳がん認定看護師))		
富山赤十字病院	黒川 敏郎(院長補佐兼血液内科部長), 高橋 裕(第2産婦人科部長), 印幡 香(皮膚・排泄ケア認定看護師/がん看護専門看護師)		
あい ART クリニック	副田 善勝(理事長)		
富山県厚生部健康対策室健康課	森本 佳彦(課長 がん対策推進担当), 小林 実季(がん対策推進担当)		
患者・家族代表	樋口 麻衣子(富山 AYA 世代がん患者会 Colors 代表)		
4. 開催実績			
回	開催日・場所	出席者数	協議の概要
第一回	令和6年7月28日(金)	20名	1. 富山県における妊孕性温存療法の助成事業について 2. 令和6年度小児・AYA 世代妊孕性温存部会の活動予定 3. アンケート結果について
第二回	令和7年2月14日(金)	16名	1. 富山県における妊孕性温存療法の助成事業について 2. 令和6年度小児・AYA 世代妊孕性温存部会の活動報告 3. 令和7年度小児・AYA 世代妊孕性温存部会の活動予定
5. 活動成果			
【令和6年度小児・AYA 世代妊孕性温存部会の活動報告】			
<ul style="list-style-type: none"> 2024年10月27日(日)に2024年度富山県がん生殖医療ネットワーク推進研修会/第5回東海北陸若手がん生殖セミナーを開催した。 テーマ:男性の妊孕性温存について 出席者:現地参加 35名, オンライン参加 120名 計 155名 2025年2月21日(金)に2024年度富山県がん生殖医療ネットワーク検討会を開催した。 症例:乳がん 育児努力のためにタモキシフェン中断(富山大学附属病院) 出席者:現地参加 23名, オンライン参加9名 計 32名 富山大学と富山県産科婦人科学会の共催で, 2025年3月2日(日)に, 市民公開講座を開催予定である。 			

【令和7年度小児・AYA 世代妊孕性温存部会の活動予定】

研修会 1 回/年, 検討会 1 回/年(併催の可能性あり)。

6. 今後の課題

【がん・生殖医療ネットワークについて】

ネットワーク要件(厚労科研研究班としての考え方)(添付資料1)の未達成項目について:

令和5年度富山県がん診療連携協議会小児 AYA 部会活動実績報告書に引き続き, 厚労科研研究班としての考え方に準じて未達成項目をクリアしていく必要がある(添付資料2)。

●要件2 がん診療医の担当者(添付資料2)

[Oncofertility Consortium Japan(OCJpn)全国ワークショップへの参加]

日本がん生殖医療学会, Oncofertility Consortium Japan では, 毎年(1 月)に全国ワークショップを行っている。今年のグループディスカッションは, がん・行政・生殖の職種に分かれて大都市・地方に分かれて行われ, 同じ職種同士で情報交換でき, これまでとはまた違った有意義なワークショップとなっていた。このようなワークショップの通知はごく限られたメンバーに届くのみであるためか毎年同じ人が参加している状況であり, 本年は富山県の「がん診療医」の参加がなかった。年1回の開催であり, 有意義な会であるため, 来年度は小児 AYA 部会のがん診療医の先生に参加していただけることが望ましい。

●要件6 患者(ないし患者家族)の代表」が参加

新たに「患者または患者家族の代表」がネットワークに参画したことにあたり, 患者または患者家族へネットワークに対する要望・意見聴取をアンケートで募ってはどうか。

●要件8, 16, 17 事業の庶務等を担う事務局

事務局の業務は, 各がん診療連携拠点病院における相談件数・温存実施数の把握(症例数の共有), 研修会・検討会の企画・運営・成果の管理(参加者数の把握)などであり, 今後事務局の在り方について, 行政と協議していく。

●要件15 検討会を実施

[検討会での症例共有について] 各がん診療施設での経験症例について順次共有していただきたい。

- ・2023 年度 厚生連高岡, 富山赤十字病院
- ・2024 年度 富山大学附属病院
- ・2025 年度 ○○病院

[施設連携について] 今年度検討会へ妊孕性温存療法実施施設にも参加を呼びかけた。今後は卵巣組織凍結・Onco-TESE 実施施設にも本部会に参加いただく体制を作る必要があるか。

7. PDCAの取組み

P	・研修会・症例検討会を企画する。 ・各がん診療連携拠点病院における相談件数の把握(症例数の共有), 研修会・検討会の企画・運営・成果の管理(参加者数の把握)までを行う事務局の役割をどこが担うのかについて検討する。
D	① 研修会・症例検討会を実施する ② 部会で上記討議項目について議論し, 具体的時間軸を決定する。

C	・部会で Do①②について半年ごとに振り返る。
A	・Check 時に, “進行が遅い”あるいは“進行ができない”案件の理由を共有し, 次年度に改善するための取り組み方を盛り込んだうえで, 次年度のPlanに継続審議する。
8. 来年度の部会長病院(案)	富山大学附属病院

※「7. PDCAの取組み」については, 「5. 活動成果」「6. 今後の課題」と内容が重複しても構いません。

厚生労働科学研究（19EA1015）がん・生殖医療連携ネットワークの全国展開と小児・AYA 世代がん患者に対する妊孕性温存の診療体制の均てん化にむけた臨床研究—がん医療の充実を志向して 研究① 本邦における小児・AYA 世代がん患者の生殖機能に関するがん・生殖医療連携体制の拡充と機能維持に向けた研究：古井辰郎、鈴木直

ネットワーク要件に関する研究班としての考え方

地域がん・生殖医療ネットワークの構成と機能に関する研究班の基本的考え

I. 地域がん・生殖医療ネットワーク設置の目的

各都道府県において、小児・AYA 世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業を実施するにあたり、行政やがん等診療施設と妊孕性温存療法実施医療施設等における、医療連携や情報連携の推進および、患者に対する情報提供並びに意思決定支援体制の整備と質の向上を図るとともに、妊孕性温存を希望する患者が円滑に治療を受けられる体制を構築する。

II. 地域がん・生殖医療ネットワークの設置概要（構成と運営）

- ① 各都道府県において、がん等診療施設、妊孕性温存療法実施医療施設（注1）、関連する行政機関等が参加し、がん等診療医、生殖医療医、相談支援担当者（治療に関すること、生殖医療に関すること、精神・心理支援に関すること、その他社会的支援等を含む様々な相談に関すること）、行政の担当者等により構成されている。患者本位の体制を構築するにあたって、患者または患者家族の代表の参画が望ましい。
- ② 地域がん・生殖医療ネットワークには代表者をおき、全体の仕組みが円滑に進んでいるかを総括する。代表者は、ネットワークの構成員の互選で決定する。
- ③ 地域がん・生殖医療ネットワークには、事業の庶務等を担う事務局を置く。（注2）
- ④ ネットワークに参画している者の役割分担を明確にした上で、名簿を作成・共有し、患者がネットワーク内のどの医療機関を受診しても迅速に必要な紹介等ができる体制を整備する。

（注1）妊孕性温存療法実施医療施設は、上記研究促進事業に即して日本産科婦人科学会または日本泌尿器科学会の認定を受けていることを条件とするが、本ネットワークの目的達成に必要と認められる場合には、妊孕性温存療法実施医療施設以外の生殖医療専門医の参画も求めることができる。また、患者の受療行動を勘案し、当該自治体の外にある医療施設であっても参加を求めることができる。

（注2）研究班で調査した結果、神奈川県では神奈川県健康医療局保健医療部がん・疾病対策課、島根県では県がん診療ネットワーク協議会（島根大学病院内）が事務局機能を担っていた。研究班では、各都道府県の実態を踏まえつつ、先行する地域がん・生殖医療ネットワークの活動を参考に、関係医療施設と地方自治体の協力の下、各地域のがん・生殖医療ネットワークに事務局を設置していくことが望ましいとの総意に至った。事務局の具体的な機能としては、普及啓発、医療施設や実施状況の情報把握や公表、運営検討会や人材育成のための研修等の開催等の業務等が想定される。

ネットワーク要件に関する研究班としての考え方

III. 地域がん・生殖医療ネットワークの事業

各地域のがん・生殖医療ネットワークは、がん等診療施設と妊孕性温存療法実施医療施設のがん・生殖医療の連携推進に資する事業を担う。研究班の検討において、以下の事業が挙げられた。

① OCjpn（注3）との連携による地域間の相互支援体制への参加

具体的には以下のとおり。

- ・地域がん・生殖医療ネットワークの事務局は構成施設やその他の情報に変更があった場合に OCjpn に情報提供する。
- ・がん・生殖医療に係る独自資料や資材などの提供等を通じて、OCjpn の支援に努める。
- ・OCjpn web サイト（JSPF 地域連携のページ）を自地域の web サイトとして利用できる。

（注3）OCjpn=Oncofertility Consortium Japan は厚生労働科学研究補助金（がん対策推進総合研究事業）「がん・生殖医療連携ネットワークの全国展開と小児・AYA 世代がん患者に対する妊孕性温存の診療体制の均てん化にむけた臨床研究—がん医療の充実を志向して」で提唱・構築された、各都道府県のネットワーク間の相互支援活動である（事務局：日本がん・生殖医療学会）。OCjpn は、web サイト (<http://j-sfp.org/cooperation/>) において各都道府県のネットワークおよび構成施設等に関する情報提供、補助説明資料や啓発資材の提供等を行うとともに、シンポジウムの開催等を行っている。なお、OCjpn への参加にあたり、日本がん・生殖医療学会への入会は条件としていない。

② 関連学会等と連携して、がん・生殖医療に携わる医療従事者に対して研修の機会を提供することによる、認定がん・生殖医療ナビゲーター、がん・生殖医療専門心理士、OFNN（オンコファティリティー・ナビゲーター・ナース）等の人材育成支援及びがん・生殖医療に関する医療者、患者・国民への啓発活動

③ がん・生殖医療の連携状況における課題の把握と解決に向けた検討会の開催

優先して検討されるべき課題として、以下に例を挙げる。

・連携体制に関する検討：

- 1) がん等診療施設における妊孕性温存療法実施医療施設に対する妊孕性温存に関する相談件数並びに実態を把握し、患者に対する情報提供や、意思決定支援を受けた患者の妊孕性温存療法実施又は非実施の適正化を図る。（注4）
- 2) 施設間連携及び-1)に関する問題点の把握と解決策を検討

（注4）実態把握の方法として地域内での情報共有および JOFR*の登録データの活用などが挙げられる。JOFR*=2021年4月から開始された、小児・AYA 世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業における、エビデンス創出のための登録事業

・がん等治療開始前から治療開始後、妊娠・分娩後に至るまでの長期にわたるがん・生殖医療に関する支援のあり方及び情報提供や支援に携わる人材育成に関する検討

以上

	要件項目	富山県の 現状	備考	
1	地域がん・生殖医療ネットワークの設置がされている	○		
2	ネットワークには、「がん診療医の担当者」が参加している	○		
3	ネットワークには、「生殖医療医の担当者」が参加している	○		
4	ネットワークには、「行政担当者」が参加している	○		
5	ネットワークには、「相談支援担当者の代表」が参加している	○		
6	ネットワークには、「患者（ないし患者家族）の代表」が参加している	×		
7	「ネットワークの代表者」が定められている	○		
8	「事業の庶務等を担う事務局」が設置されている	×		
9	ネットワークの運営に参画している者の名簿が作成されている	○		
10	ネットワークの運営に参画している者の役割分担がなされている	○		
11	OCJpn (Oncofertility Consortium Japan) への情報提供体制が整えられている	3	5段階評価 (5:できている)	
12	医療従事者に対する研修の提供体制が整えられている	4	5段階評価 (5:できている)	
13	医療従事者への啓発活動を実施している	4	5段階評価 (5:できている)	
14	患者・住民への啓発活動を行っている	4	5段階評価 (5:できている)	
15	地域がん・生殖医療連携における問題点の把握と解決策に関する検討会を実施している	4	5段階評価 (5:できている)	
16	ネットワーク事務局が、ネットワーク参画施設における相談件数を把握することが可能である	3	5段階評価 (5:できている)	
17	地域での妊孕性温存実施件数（概数）の把握が可能である	3	5段階評価 (5:できている)	
18	都道府県がん対策推進計画の中に本件に関する計画を有する	○		
19	今後都道府県がん対策推進計画の中に本件に関する計画を取り入れる予定である	○		

令和6年度富山県がん診療連携協議会作業部会活動実績報告書

1. 部会名 がん登録	2. 部会長病院(部会長)	富山赤十字病院 (副院長 芝原 一繁)
3. 部会メンバー		
黒部市民病院	高松 秀行 (医療技術部主任部長 血液内科部長) 能登 啓尚 (情報管理課 係長) 南保 寛子 (情報管理課 診療情報管理士) 中島 香 (情報管理課)	
富山労災病院	石浦 嘉之 (泌尿器科部長) 八木 満 (消化器内科部長) 谷 昌子 (医事課 診療情報管理士)	
富山市民病院	長谷川 徹 (健康診断部主任部長) 鍛冶 裕子 (医事課 副主幹) 中川 理恵 (医事課 診療情報管理士) 長瀬 玲 (医事課 診療情報管理士)	
富山大学附属病院	猪又 峰彦 (第一内科診療教授) 湯畑 功二 (医事課長) 棚元 真希 (医事課 診療情報管理士) 梁沢 智美 (医事課)	
厚生連高岡病院	経田 克則 (血液内科診療部長) 老月 昌美 (医療情報部 課長) 高橋 章乃 (医療情報部 係長) 山田 麻未 (医療情報部 診療情報管理士)	
高岡市民病院	中谷 敦子 (担当局長) 池守 凡子 (医事課長) 升方 裕子 (医事課 診療情報管理士)	
市立砺波総合病院	田畑 敏 (大腸・肛門外科主任部長 兼 がん診療部長) 田中 有佳 (医療情報部 診療情報管理士) 澤田 若菜 (医療情報部 診療情報管理士)	
富山県立中央病院	石澤 伸 (病理診断科部長) 砂原 恭子 (病歴管理科 副科長) 山田 美菜 (病歴管理科 診療情報管理士) 澤武 ちさと (病歴管理科 診療情報管理士)	
済生会高岡病院	吉田 徹 (診療部長(外来・地域連携) 兼 外科部長 兼 総合地域連携部長) 奥田 美紀 (経営戦略室主事 兼 総務課主事) 品川 恵理子 (医事課 診療情報管理士) 川田 沙織 (医事課 診療情報管理士)	
富山赤十字病院	芝原 一繁 (副院長) 高坂 利幸 (医療情報管理課長) 松井 綾子 (医療情報管理課 診療情報管理士) 葛島 美穂 (医療情報管理課)	
富山県 厚生部 健康対策室	森本 佳彦 (健康課 がん対策推進担当課長) 藤田 のどか (健康課 がん対策推進班)	

4. 開催実績			
回	開催日・場所	出席者数	協議の概要
第一回	令和6年6月18日 (火)	29名	1. 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会の情報共有 2. 富山県がん診療連携拠点病院 2022 年診断分比較報告、各病院の経年比較報告
5. 活動成果			
1) 国立がん研究センターで Web 開催された「令和6年度都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会」の資料をもとに、現状、今後の予定など情報共有を行った。			
2) 富山県がん診療連携拠点病院 2022 年診断分比較報告、及び各病院の経年比較を行い、各病院の特性などについて情報共有・分析を行った。			
3) 院内がん登録運用マニュアルの修正内容の情報共有			
6. 今後の課題			
1) 2023 年・2024 年院内がん登録・全国がん登録、及び院内がん登録 5 年生存率集計の情報共有・分析を図る。			
2) 日々のがん登録業務における疑問点及び問題点について協議する。			
7. PDCAの取組み			
P	がん登録について都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会資料等により情報共有を行う。		
D	がん登録作業部会を開催した。		
C	事業報告、今後の予定、院内がん登録の経年比較について情報共有を行った。		
A	<ul style="list-style-type: none"> 各施設でのがん医療の質の向上に対し、情報の還元・活用に向けての課題を明らかにする。 がん登録業務における疑問点及び問題点について協議する。 		
8. 来年度の部会長病院(案)		富山市民病院	

令和6年度富山県がん診療連携協議会作業部会活動実績報告書

1. 部会名		相談支援部会	2. 部会長病院(部会長)		黒部市民病院(部長 丸山裕美子)
3. 部会メンバー					
黒部市民病院	丸山 裕美子(耳鼻いんこう科部長)、土屋 他恵子(公認心理師)、谷口 航洋(総務課主事)				
富山労災病院	庄司 泰弘(第二外科部長)、山本 尚宏(医事課長)、原 直子(相談員(看護師))				
富山市民病院	名倉 慎人(外科医長 緩和ケア内科医長)、中井 尚美(看護師(がん看護専門看護師))				
富山大学附属病院	松井 恒志(がん相談支援センター長)、市川 美幸(看護師長)、中本 敬子(相談員(看護師))、伊井 瑞穂(相談員(医療ソーシャルワーカー))、古島 美差子(総合がんセンター(事務))				
厚生連高岡病院	岩佐 桂一(腫瘍内科診療部長)、赤江 郁子(がん相談支援室 部長待遇相談員(看護師))、吉田 志布(相談員(看護師長))				
高岡市民病院	堀川 直樹(がん医療担当局長)、豊本 香里(主任看護師)、近藤 勝春(総務課主任(事務))				
市立砺波総合病院	田畑 敏(がん診療部長)、小竹 実穂(地域医療連携室主幹(社会福祉士))、平 優子(相談員(看護師長代理))、中本 達也(医事課)				
富山県立中央病院	船木 康二郎(緩和ケアセンター部長)、峠 正義(がん相談支援センター室長)、酒井 貴代美(看護部診療看護科長)、藤岡 恵子(緩和ケアセンター部ジェネラルマネージャー)、五十嵐 裕子(相談員(緩和ケア認定看護師))、藤澤 芹花(経営管理課)				
済生会高岡病院	吉田 徹(外科部長)、山田 真由美(看護師(乳がん認定看護師))、若山 優子(医療ソーシャルワーカー)、奥田 美紀(総務課主事)				
富山赤十字病院	竹原 朗(第2外科部長兼化学療法センター長)、麥 彩弥可(相談員(看護係長))、小川 恵梨(相談員(看護主任))、下田 知美(総務課職員係長)				
オブザーバー	三浦 紫乃(新川厚生センター)、白又 小晴(中部厚生センター)、石村 文萌(高岡厚生センター)、佐武 美樹(砺波厚生センター)、山田 雅実(富山市保健所)、森本 佳彦(富山県厚生部健康課)、小村 彩乃(富山県厚生部健康課)、尾川 洋子(富山県がん総合相談支援センター)				
4. 開催実績					
回	開催日・場所	出席者数	協議の概要		
第一回	令和6年10月2日(水) オンライン開催	21名	<ol style="list-style-type: none"> 令和5年度相談実績報告及び令和6年度活動計画 令和7年度部会長病院の選出及び令和6年度ワーキンググループについて 令和6年度地域相談支援フォーラム in 富山について 富山県からの報告 『がん患者在宅療養支援体制整備事業について』 富山県がん総合支援センターからの報告 第22回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会の報告 		
第二回	令和7年2月5日(水) オンライン開催	31名	<ol style="list-style-type: none"> 令和6年度相談実績報告(R6.4~R6.12)について ワーキンググループ活動報告について 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会の報告について 患者団体やピアサポーター等と相談支援部会の連携方法について 令和6年度活動実績報告書(案)について 		
5. 活動成果					

・令和6年 11 月 23 日(土)地域相談支援フォーラム(富山県主催)の開催

「アピアランスケアを学び、社会をつなげよう ～共に支える相談員であるために～」

6. 今後の課題

- 1) がん相談支援の認知向上のために広報ワーキンググループをより機能させる
- 2) 小児・AYA 世代への相談の知識・技術向上に努める(継続課題)
- 3) 患者団体やがんピアサポーター等との連携体制の構築

7. PDCAの取組み

P	1) がん相談支援の認知を向上させる 2) 各種相談支援研修会を実施し相談員の質を向上させる
D	1) 図書館との連携を実施した 2) 地域相談支援フォーラム(共催)を実施した
C	1年間の相談件数の実績や内容および課題をとりまとめ、部会で情報共有・意見交換を行った
A	1) 広報ワーキンググループを中心にがん相談支援の認知向上に努める 2) 研修ワーキンググループを中心に研修会の企画・運営及び相談員への参加を呼びかけ相談員の質の向上に努める 3) 1)および 2)について患者団体やピアサポーター等とも協議することで、患者の視点に立った相談支援体制を整える

8. 来年度の部会長病院(案)

富山労災病院

※「7. PDCAの取組み」については、「5. 活動成果」「6. 今後の課題」と内容が重複しても構いません。

令和6年度富山県がん診療連携協議会作業部会活動実績報告書

1. 部会名	緩和ケア部会	2. 部会長病院(部会長)	富山県立中央病院（船木康二郎緩和ケアセンター部長）
3. 部会メンバー			
黒部市民病院	寺田 逸郎(緩和ケアセンター部長)、野口 直子(看護師長)、谷口 航洋(総務課主事)		
富山労災病院	川崎 聡(副院長 内科・呼吸器科部長)、浜田 晶子(看護師長補佐)、栗飯原 弘幸(総務課長)		
富山市民病院	中山 啓(緩和ケア内科部長)、島 佳子(看護科副看護師長 緩和ケア認定看護師)、村中 なつみ(経営管理課主査)		
富山大学附属病院	林 龍二(総合がんセンター長、臨床腫瘍部 部長)、梶浦 新也(臨床腫瘍学講座 講師、臨床腫瘍部 副部長)、市川 美幸(緩和ケアセンターGM)、垣地 彩(病院企画課係長)		
厚生連高岡病院	村上 望(緩和ケアセンター センター長)、松長 成美(緩和ケア病棟 主任看護師)、平井 大裕(総務課)		
高岡市民病院	磯部 博隆 (緩和ケア内科部長)、村田 裕子(主任看護師)、近藤 勝春(総務課主任)		
市立砺波総合病院	加登 大介(緩和ケア科部長)、高島 留美(看護部 緩和ケア認定看護師)、中本 達也(がん診療部兼医事課・主任)		
富山県立中央病院	船木 康二郎(緩和ケアセンター部長)、藤岡 恵子(緩和ケアセンターGM)、藤澤 芹花(経営管理課主事)		
済生会高岡病院	吉田 徹(外科部長)、木津 真弓(看護部 緩和ケア認定看護師)、奥田 美紀(総務課主事)		
富山赤十字病院	時光 善温(緩和治療センター長)、村上 真由美(看護師長兼がん看護専門看護師)、奥村 紗季(経営企画課主任)		
オブザーバー	森本 佳彦(県健康課がん対策推進課長)、藤田 のどか(県健康課がん対策推進担当主事)、坂東 正(済生会富山病院副病院長)、藤縄 マスミ(済生会富山病院看護師)		
4. 開催実績			
回	開催日・場所	出席者数	協議の概要
第一回	令和6年7月4日(オンライン会議)	33名	1. 本年度の活動と今後の課題について 2. 緩和ケア部会としての PDCA サイクルについて
第二回	令和7年2月26日(オンライン会議)	35名	1. 本年度の活動と今後の課題について 2. 緩和ケア部会としての PDCA サイクルについて
5. 活動成果			
<p>1) 今年度の緩和ケア研修会について報告・意見交換を行った。 各病院で研修会を開催した。他施設の開催時にも参加できるように周知の強化を行うこととした。今年度は富山県立中央病院と黒部市民病院は共催で実施したが、来年度以降においても参加人数の少ない病院は、共催を検討していくこととなった。研修会の日程については各病院で早い時期に調整を行い富山県のホームページに掲載する予定とする。</p> <p>2) 富山緩和医療研究会については、来年度本部会の活動の一部として開催を予定している。</p> <p>3) 緩和ケア合同検討会議は富山大学、黒部市民病院が開催を行った。以前は、がん診療連携拠点病院の要件であったため、部会として富山大学に開催を依頼していたが、要件ではなくなったため、来年度から緩和ケア合同検討会議は部会事業としないことで承認を得た。緩和ケアに関する市民公開講座については富山大学がユーチューブ上で開催を行った。緩和ケアフォローアップ研修会については、参加者から継続の声もあったため、本部会からの依頼で行っていくという形で来年度も富山大学が主体となり開催していく。</p> <p>4) PDCAサイクルについて（ピアレビュー・在宅緩和ケア地域連携パス）</p> <p>・ピアレビューについては、現在は高岡医療圏で積極的に行われており、今後本部会としての活動として県全体での取組</p>			

を富山県立中央病院が中心となって実施していくこととした。次年度は富山県立中央病院で6月4日に開催することを予定しており平日日中の開催となるが、本部会と富山県立中央病院の事業として開催し依頼文を出し参加者が所属施設の業務として参加できるようにする予定。

・在宅緩和ケア地域連携パスについては、ICT化が進み各医療圏・コミュニティによってそれぞれの取組があるが、今後は統一的な取組を視野に継続して行っていくことを確認した。この活動が徹底にはパスという形での活動ではなくなっていることも考慮し、これまでの活動の延長とはなるが次回以降活動の名称を変更することとなった。

5) 来年度の部会長病院は富山大学となったが、本部会の活動において富山大学と富山県立中央病院が活動の中心となることより継続した活動を行うために副部会長病院を置くこととし、来年度は富山県立中央病院が副部会長病院となることとなった。

6) 相談支援部会で患者・家族・一般市民用に緩和ケアに関するまとまった県内の情報があれば良いとの意見があり、緩和ケア部会として県内の緩和ケアに関する情報をまとめホームページなどで患者・家族・一般市民への案内ができるようにしたいとの提案があり了承され富山県立中央病院が中心となり進めていくこととなった。

6. 今後の課題

1) 緩和ケア研修会については県全体で連携を取りながら受講対象者の把握、他施設での受講が可能となるような体制を整備していく。また共同開催について検討を行っていく。

2) 本部会の分科会として富山緩和医療研究会が開催、運営できるような規約、体制を構築する。

3) 緩和ケア合同検討会議、緩和ケア市民公開講座、フォローアップ研修会の継続開催ができるように調整を行う。

4) ピアレビュー・在宅緩和ケア地域連携パスに関してPDCAの取り組みについて今後も部会員全体で取り組んでいく。

7. PDCAの取組み (ピアレビュー・在宅緩和ケア地域連携パス)

ピアレビュー

P 高岡医療圏で積極的に行われているピアレビューを県全体での活動に広げ取り組んでいく。

D 2023年12月23日に済生会高岡病院で高岡医療圏がん拠点病院ピアレビューが開催され本部会員も参加し今後の県全体での取り組みに向けて情報共有を行った。

C 高岡医療圏がん拠点病院ピアレビューは2018年から計3回にわたり継続開催され医療圏内の活動や課題について共有され地域の緩和ケアの質の向上に寄与していると考えられた。

A 2025年6月4日に富山県立中央病院ピアレビューを開催予定である。その実施内容も踏まえて次年度以降の活動に活かしていく。

在宅緩和ケア地域連携パス

P 富山県統一パス在宅緩和ケア地域連携パスの有用性を検討する。

D 各病院のパス利用状況について情報交換をし、紙パスの利用状況が少なく、ICT化していく方向で意見がまとまった。高岡医療圏、富山市内で先行して帝人株式会社の「バイタルリンク R」を用いてパスのICT化を引き続き行っている。

C 地域連携パスの活動としてICTを用いた地域連携が行われている。
現在紙を用いた地域連携パスの運用は行われておらず、地域連携パスという名称が合わなくなっている。

A 本取り組みの名称の変更を行い本部会として県全体で取り組みを引き続き行っていく。

8. 来年度の部会長病院

富山大学附属病院

令和6年度富山県がん診療連携協議会作業部会活動実績報告書

1. 部会名	地域連携クリティカル パス部会	2. 部会長病院(部会長)	富山県立中央病院 (副院長 加治正英)
3. 部会メンバー			
黒部市民病院	河岸 由紀男 (呼吸器内科部長/肺) 寺田 逸郎 (副院長・外科部長/胃・大腸) 中井 亮太郎 (消化器内科医長/肝) 高本 美智子 (医事課長)	嶋田 喜文 (呼吸器外科医長/肺) 杉本 優弥 (外科医員/乳)	
富山労災病院	川崎 聡 (副院長・呼吸器内科部長/肺) 経田 淳 (消化器外科部長・乳腺外科部長/胃・大腸、乳)	八木 満 (消化器内科部長/胃・大腸・肝) 若林 悠佳 (医事課)	
富山市民病院	土岐 善紀 (呼吸器外科部長・呼吸器・血管外科センター部長/肺) 宮下 知治 (外科部長/胃・大腸) 上山本 伸治 (外来診療部主任部長・消化器内科部長/肝) 岩鍛冶 愛子 (医事課主事)	野村 智 (呼吸器内科部長/肺) 名倉 慎人 (外科医長/胃・大腸) 竹中 哲 (乳腺外科部長/乳)	
富山大学附属病院	林 龍二 (臨床腫瘍部・部長・教授・がんゲノム医療推進センター長/肺) 下山 孝一郎 (呼吸器外科・講師/肺) 梶浦 新也 (臨床腫瘍部副部長・講師/胃・大腸) 田尻 和人 (内科学(三)・消化器内科・准教授・消化器内科・副科長/肝) 吉岡 伊作 (第二外科特命講師・小児外科診療科長/肝) 松井 恒志 (第二外科・講師・乳腺科・内分泌外科診療科長/乳) 垣地 彩 (病院企画課係長)		
厚生連高岡病院	柴田 和彦 (院長・腫瘍内科診療部長/肺) 原 拓央 (副院長・外科診療部長/胃・大腸) 澤田 幸一郎 (外科診療部長待遇/胃) 林 泰寛 (外科診療部長待遇/肝) 横田 和之 (医事課長)	谷内 毅 (呼吸器外科診療部長/肺) 小竹 優範 (消化器外科診療部長/大腸) 寺田 光宏 (消化器内科診療部長/肝) 尾山 佳永子 (乳腺外科診療部長/乳)	
高岡市民病院	宮永 章平 (外科部長/胃・大腸) 飯田 優理香 (外科部長/乳)	伊藤 博行 (理事・副院長/肝) 池守 凡子 (医事課長)	
市立砺波総合病院	清原 薫 (副院長・外科主任部長/肺) 家接 健一 (外科部長/大腸) 野崎 善成 (外科部長/乳)	浅海 吉傑 (外科部長/胃) 岡村 利之 (内科部長/肝) 中本 達也 (医事課・主任)	
富山県立中央病院	新納 英樹 (呼吸器外科部長/肺) 羽田 匡宏 (外科部長/胃・大腸) 吉川 朱実 (外科部長/乳)	加治 正英 (副院長・外科部長/胃・大腸) 酒井 明人 (副院長・消化器内科部長/肝) 藤澤 芹花 (経営管理課主事)	
済生会高岡病院	神原 健太 (呼吸器内科部長/肺) 吉田 徹 (診療部長・外科部長/胃・大腸、肝、乳) 寺崎 禎一 (副院長・リハビリテーション療法部長/肝) 奥田 美紀 (総務課主事)		
富山赤十字病院	宮津 克幸 (呼吸器外科部長/肺) 品川 和子 (第2消化器内科部長/胃) 竹原 朗 (第2外科部長/大腸) 渡邊 和英 (第1外科部副部長/乳)	市川 智巳 (呼吸器・アレルギー内科部長/肺) 芝原 一繁 (副院長・第1外科部長/胃) 時光 善温 (肝臓内科部長/肝) 牛丸 和博 (医事サービス課長)	
オブザーバー	森本 佳彦 (健康課がん対策推進担当課長)	藤田 のどか (健康課がん対策推進担当主事)	

4. 開催実績			
回	開催日・場所	出席者数	協議の概要
第一回	令和6年10月3日 オンライン	30名	・地域連携パスの運用状況について
第二回	令和7年2月17日 オンライン	28名	・地域連携パスの運用状況について ・令和7年度の部会長病院の選出について
5. 活動成果			
<p>令和6年度のがんパス運用実績(胃がん、大腸がん、乳がん、肺がん、肝臓がん)は、以下の通りであった。</p> <p>富山県立中央病院 120件 厚生連高岡病院 23件 富山大学附属病院 29件 高岡市民病院 9件 済生会高岡病院 13件 富山赤十字病院 7件 砺波総合病院 3件</p> <p>・各拠点病院の運用状況を報告し、パスの利用を増やすための方策について意見交換を行った。</p>			
6. 今後の展望			
<p>・パス適用数の増加及び今後の利用増を図るための取組みについて検討。</p> <p>①がん地域連携パスのメリットについて各病院で周知していただく。 ②ホルモン剤や抗がん剤使用している進行がん症例も対象に含める。 ③医師の負担軽減のため、パスの入力作業をクラークに業務分担お願いする。 ④最近症例数が増加している食道がん、前立腺がんについてもパス導入を検討していく。 ⑤他県の運用事例について講演していただく。 ⑥かかりつけ医への普及活動をすすめる。</p>			
7. PDCAの取組み			
P	パスの利用実績を増やす		
D	各病院で使いやすいパスを作成して利用しやすくする		
C	1年間のパスの利用実績をとりまとめ、部会で意見交換・情報共有を行った		
A	さらなるパスの利用増をめざし、がん種に応じた工夫をする		
8. 来年度の部会長病院(案)		富山県立中央病院	

第17回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会

令和6年7月11日

資料
1



がん診療連携拠点病院等の整備指針見直しスケジュールについて

厚生労働省健康・生活衛生局がん・疾病対策課

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

がん診療連携拠点病院等の整備指針改定の経緯

第15回がん診療提供体制のあり方に関する
検討会

資料 1
一部改編

令和6年1月15日

- ◆ がん診療連携拠点病院等の整備指針は平成13年に策定された後、これまでに5回の改定を行っている。
- ◆ 小児がん拠点病院の整備指針は平成24年に策定された後、これまでに2回の改定を行っている。
- ◆ がんゲノム医療中核拠点病院等の整備指針は平成29年に策定された後、これまでに1回の改定を行っている。

平成13年8月

地域がん診療拠点病院の整備に関する指針

平成14年3月

地域がん診療拠点病院の指定開始（5か所）

平成17年4月

がん医療水準均てん化に関する検討会報告書

- ✓ 拠点病院指定要件をできる限り数値を含めて明確化すること、地域がん診療拠点病院を、診療・教育研修・研究・情報発信機能に応じて2段階に階層化すること、特定機能病院を指定の対象とすること等が提言された。

平成18年2月

がん診療連携拠点病院の整備について（健康局長通知）

平成18年6月

がん対策基本法 成立

平成19年4月

がん対策基本法 施行

平成19年6月

がん対策推進基本計画（第1期）の閣議決定

平成20年3月

がん診療連携拠点病院の整備について（健康局長通知）

平成24年6月

がん対策推進基本計画（第2期）の閣議決定

平成24年9月

小児がん拠点病院の整備に関する指針

平成24年12月～

がん診療提供体制のあり方に関する検討会

平成26年1月

がん診療連携拠点病院等の整備について（健康局長通知）

平成29年12月

がんゲノム医療中核拠点病院等の整備に関する指針

平成30年6月

がん対策推進基本計画（第3期）の閣議決定

平成30年7月

がん診療連携拠点病院等の整備について（健康局長通知）

同上

小児がん拠点病院等の整備について（健康局長通知）

令和4年8月

がん診療連携拠点病院等の整備について（健康局長通知） ※**現行の整備指針**

同上

がんゲノム医療中核拠点病院等の整備について（健康局長通知） ※**現行の整備指針**

同上

小児がん拠点病院等の整備について（健康局長通知） ※**現行の整備指針**

令和5年3月

がん対策推進基本計画（第4期）の閣議決定

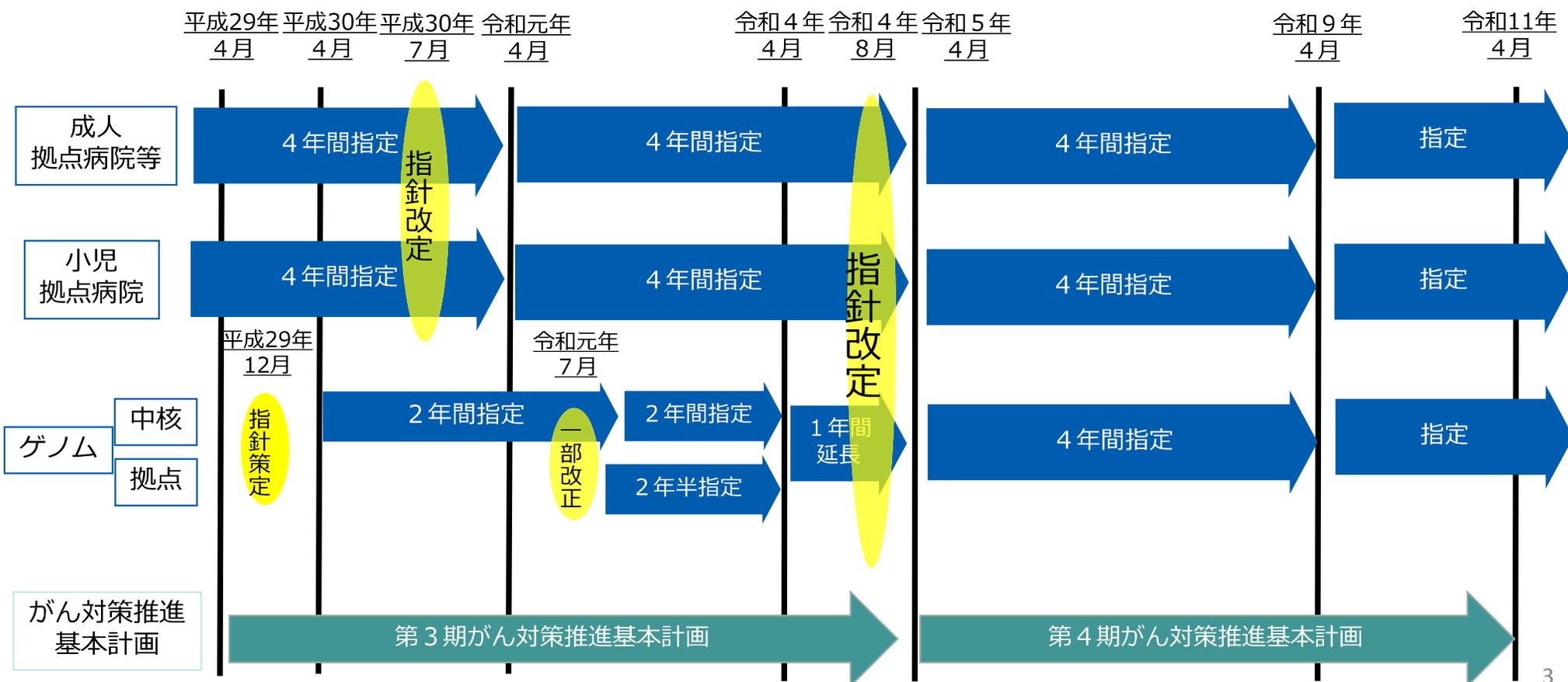
がん診療連携拠点病院等の整備指針改定（直近）

第15回がん診療提供体制のあり方に関する
検討会

資料1
一部改編

令和6年1月15日

- がん診療連携拠点病院等の整備指針は直近2回の改定は、4年おきであった（平成30年、令和4年）。
- 従来、がん対策推進基本計画の見直し期間と、同整備指針の見直し期間が異なっている。



各整備指針での見直しに係る記載

第15回がん診療提供体制のあり方に関する
検討会

令和6年1月15日

資料1
抜粋

いずれの整備指針においても具体的な見直し時期は規定されていない。

成人

Ⅶ 既指定病院の取扱い、指定・指定の更新の推薦手続等、指針の見直し及び施行期日について

4 指定の更新の推薦手続等について

(1) Iの1及び4の指定は、4年ごと、もしくは指定時に定められた期間の満了の日までにその更新を受けなければ、その期間の経過によって、その効力を失う。

5 指針の見直しについて

健康局長は、がん対策基本法第10条第8項において準用する同条第3項の規定によりがん対策推進基本計画が変更された場合その他の必要があると認める場合には、本指針を見直すことができるものとする。

がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針より抜粋

小児

Ⅴ 指定の申請手続等、指針の見直し及び施行期日について

3 拠点病院の指定の有効期間について

(1) Iの1の指定の有効期間は、原則4年間とし、その期間の経過によって、その効力を失う。なお、有効期間経過後の拠点病院の指定は、Iの1の規定に基づき、改めて行うものとする。

4 指針の見直しについて

健康局長は、がん対策基本法第10条第8項において準用する同条第3項の規定によりがん対策推進基本計画が変更された場合その他の必要があると認める場合には、本指針を見直すことができるものとする。

小児がん拠点病院等の整備に関する指針より抜粋

ゲノム

Ⅴ その他

2 指定の申請手続等について

(6) 本通知に係るがんゲノム医療中核拠点病院及びがんゲノム医療拠点病院の指定は、4年間とする。

3 指針の見直し

健康局長は、必要があると認める場合には、本指針を見直すものとする。

がんゲノム医療中核拠点病院等の整備に関する指針より抜粋

各整備指針見直しのスケジュールについて

第15回がん診療提供体制のあり方に関する
検討会

資料1
一部改編

令和6年1月15日

現状・課題

- 令和4年の整備指針改定を除き、がん対策推進基本計画の見直し期間と拠点病院等の整備指針の見直し期間が異なっていたことから、がん対策推進基本計画で定めたがん医療提供体制に係る取組を、整備指針に反映させるに当たり時間差が生じるという課題があった。
 - ※ がん対策基本法では、少なくとも6年ごとにがん対策推進基本計画に検討を加えることとされている
- 成人のがん診療連携拠点病院制度は開始されてから20年以上が経過し、がん医療提供体制の整備が一定程度進み、制度が作られた当初のような整備指針の頻回の見直しを必要としないと想定される。
- 一方、がんゲノム医療に関しては、技術開発の進展とそれに伴う新規がん遺伝子パネル検査の導入や患者数の増加等による、求められる医療提供体制の変化に応じて、柔軟に整備指針を見直す必要がある。
- 小児がん診療に関しては、小児がん連携病院の指定要件、小児がん拠点病院の数や地域ブロックごとの分布に関する課題について引き続き検討を行う必要がある。

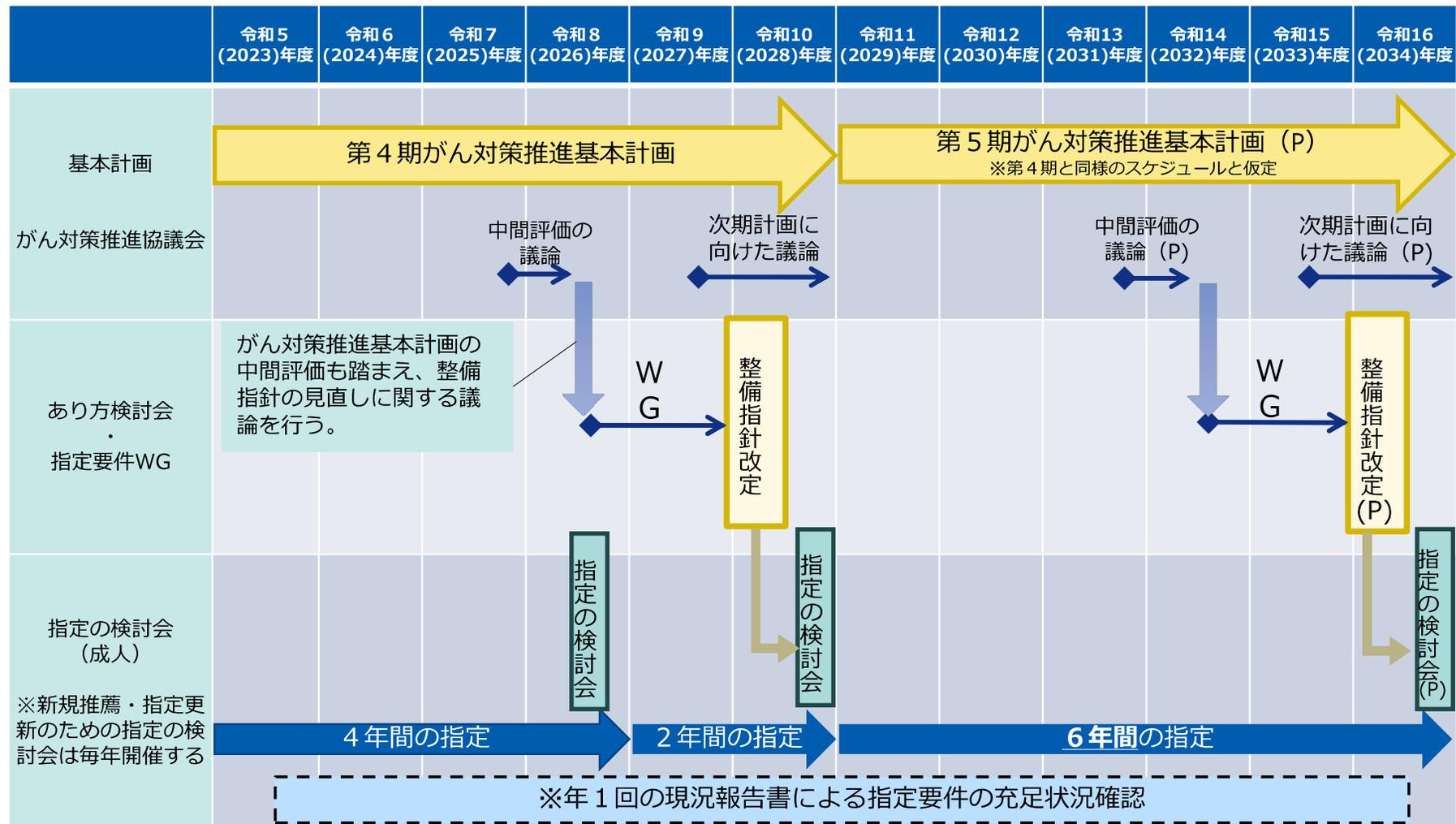
方向性

- がん対策推進基本計画の見直しにおける医療提供体制に係る検討と、がん診療連携拠点病院等の整備指針の改定に係る検討とを連動させて、政策的に一体性を持ったがん医療提供体制の構築を進める観点から、がん診療連携拠点病院等の整備指針見直し期間を6年ごととし、がん対策推進基本計画の見直し期間と一致させる。
- 今後整備指針見直し期間を6年ごととすることを念頭に、次回の見直しは令和10年度（2028年度）を目途とする。
- ゲノムと小児の整備指針については、従来どおり（必要に応じて見直す）とする。

がん診療連携拠点病院等の整備指針見直しスケジュール

がん診療連携拠点病院等の整備指針見直しサイクルを 6 年間とする。また、がん診療連携拠点病院等の次の指定期間を **2 年間** とし、その後は **6 年間** の指定期間とする。

※その他必要な場合には、適宜見直す。



活動報告

富山県がん診療連携協議会HPの活動報告書

活動の目的

がん診療連携拠点病院間でがん医療等に関する情報を共有し、広く周知する。そして、富山県内のどこに住んでいても適切な診断や治療にスムーズにアクセスできるようにする。

活動成果

■お知らせページ

市民公開講座の掲載

- ・富山大学附属病院 1 件、富山市民病院 1 件、厚生連高岡病院 1 件
富山県立中央病院 1 件 計 4 件

活動報告の掲載

- ・相談支援部会 1 件、富山県立中央病院 1 件 計 2 件

■協議会会議資料ページ（新設）

令和 5 年度第 2 回富山県がん診療連携協議会の議事録・会議資料の掲載

今後の予定

- ・県内のがん診療状況の更新（令和 6 年 9 月 1 日）
- ・お知らせに一般市民向けの案内だけでなく、医療従事者向けの案内も掲載
- ・各作業部会でHPの周知・活用方法について協議

協議事項

・お知らせページの更新は掲載方法統一のため、富山県立中央病院経営管理課が担当することにした。掲載を希望される場合、下記についてご連絡いただきたい。

■連絡事項

- ・画像：チラシや写真の電子データ
- ・対象：一般市民向け、医療従事者向け、開催案内、活動報告等
- ・タイトル
- ・開催日時
- ・掲載文

■連絡先

富山県立中央病院経営管理課